

能登半島地震発災からの DSAM 活動推移

1月1日 16:10 発災。

DSAM グループ LINE にて即、情報収集と共有開始。

日本鍼灸師会関東甲信越ブロック、東海北陸ブロック、近畿ブロックの安否確認。

大津波警報が発令されたため安否確認を一時中断し、新潟・富山・石川の会員は身の安全を第一に考えた行動を呼びかけ。

情報収集に徹する。

1月2日 大津波警報が徐々に解除されたため、各県に会員の安否確認を再開。

DMAT 本部が石川県庁内に設置される。

1月8日 DSAM 先遣隊現地に派遣。
DMAT 本部内に DSAM ロジチーム設置。
救護班登録を済ませ DMAT 本部内にて情報収集および調整開始。

1月9日 DMAT 隊や消防隊、自衛隊を対象とした支援者支援を開始。
施術は 20 時～ 23 時。
石川県両師会にて日程調整をおこなう。

1月14日 DMAT 本部が石川県保健所の許可を得て、いしかわ総合スポーツセンター（1.5 次避難所）にて避難者に対するはりきゅうマッサージの提供を開始。
施設責任者との話し合いの末、2月末まで毎週日曜実施が決定。

1月17日 調整員として DSAM 委員を常駐させていたが、DMAT の撤退も視野に入れ、現地調整本部を撤収しオンコールで対応することに。

1月21日 珠洲市現地 DMAT からの依頼で珠洲市役所支援者支援に DSAM 隊員を派遣。
継続を依頼されたため、1/29、1/31、2/2、その後週に1回程度2月末までスケジュールを立てる。

以降、随時災害支援団体と連携をとるため、日本災害鍼灸マッサージ連絡協議（JLCDAM）を通じて情報共有をおこなっている。

防災

災害と鍼灸を考える

1月1日に起きた能登半島地震では、業界団体が横断的に協力をしながら、鍼灸ボランティア活動をおこなっています。今回は発災以降の動きや活動に参加した当会会員の現地レポートをお届けします。

はじめに

災害鍼灸について会報に掲載してまいりましたが、まさか2024年がこのようにはじまるとは誰が予想したでしょうか。令和6年能登半島地震により亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

発災からの動き

発災以降 DSAM の LINE は途切れることなく常に忙しく稼働しています。平時より月1回おこなわれていた JLCDAM の会議も臨時会議として頻繁に場が設けられ、情報共有・連携を徹底しています。

県庁における活動が円滑に運んだのは、石川県両師会が石川県との災害協定を結んだばかりであったこと、平時から石川県と密に顔を合わせていたからです。DMAT 調整本部に DSAM が入ったのも、JIMEF により積み重ねてきた顔の見える関係、鍼灸マッサージへの理解があったからです。それぞれの顔が見える関係がうまく補い合い、今回の鍼灸マッサージ支援が実現していることは間違いありません。

また、これまでの活動実績が認められつつあることで、災害時の鍼灸マッサージ支援が被災者だけでなく、支援者支援という点においてもニーズが非常に高まっていることを今回実感しました。被災地で救護活動をおこなう自衛隊員・消防隊員や、情報収集・避難者

管理をおこなう県庁職員は発災以降休むことなく活動しており、その方々の肉体的・精神的な疲労を減らすことができるのは、私たち鍼灸マッサージ師がもつとも得意とするところからです。

「ただ被災地のために」

現地に入り、ロジスティック（ボランティアの裏方の動き）を知れたことは大きな学びとなりました。運営を担当してあらためて感じたことは、「ただ被災地のために」というマインドの大切さです。

災害支援活動は、基本的に厚労省直轄 DMAT および行政の災害対策本部の指示管理のもとで実施されています。医師を頂点

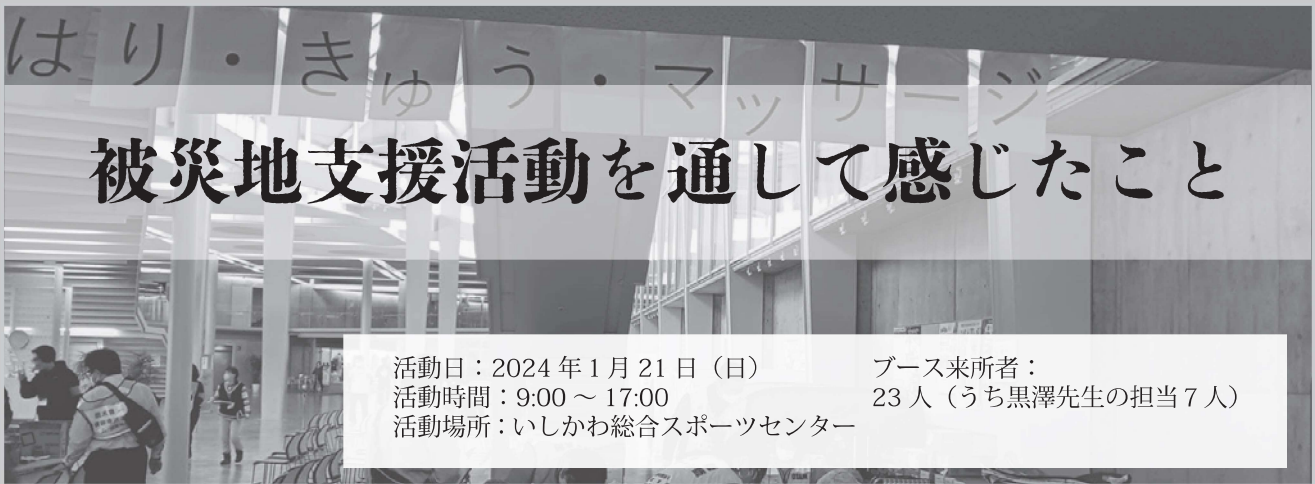
としたピラミッド構造のもと、さまざまな医療職種の方で成り立っている医療支援の現場では、都度関係各所に挨拶をし、その日のカルテを報告書にまとめて保健師に提出し、必要があれば避難所における住所とともに申し送りをします。自分本位で施術するのではなく、災害医療支援のチームの一員として活動してこそ、ただ被災地のために私たちができることが発揮されます。

また、鍼灸マッサージ師として現地入りしても、ごみ拾いや仮設ベッドの組み立てのお手伝いが求められることもあります。それに嫌な顔をせず、他の医療職種と連携して被災者・支援者のためにできることをおこなっていただけるマインドが一番大切なことです。

長期的な支援を

災害鍼灸の現場は活動のたびに改善を重ね、被災地での高まるニーズを受けとめ、より社会の役に立つよう、皆さまと被災地をつないでいきたいと思いついています。また、今回の震災では平時から顔の見える関係づくりや、業界として連携することの重要性を考えさせられました。そして何より、どれほど現場において鍼灸マッサージが役に立つのかを真剣に伝えていかねばなりません。

能登半島では東日本大震災以上の被災状況である地域もあり、災害支援も長期的になると見込まれています。いしかわ総合スポーツセンターだけでなく、珠洲市でも活



被災地支援活動を通して感じたこと

活動日：2024年1月21日（日）
活動時間：9:00～17:00
活動場所：いしかわ総合スポーツセンター

ブース来所者：
23人（うち黒澤先生の担当7人）

はじめに私がこの情報をいただいたのは元日の夜、君島災害鍼灸委員長からでした。もともと、被災地支援をしたいという想いを胸に鍼灸マッサージ師の資格を取得したことや、取得前からDSAMの講習会などに参加していたことをご存知で、今回お声かけいただいたと思います。

参加するにあたって、「もしかしたらまた大きな地震が来るかもしれない」と不安を感じていましたが、これまで災害が起きるたびに「何か自分にできることはないか」とモヤモヤし続けていた私は、とにかく行かないことには何も変わらないと思い、活動の5日前に応募しました。現地に入る事前準備として、社会福祉協議会へボランティア保険の加入手続きを済ませ、SNS等ですでに参加された先生から現地の情報を集めました。

活動前日に現地入りしてまず感じたことは、金沢駅周辺は被災した形跡がないことでした。身の安全が確保されたことは大きな安心材料になりました。

当日は全国各地から参集した先生方と注意思事項などを確認してからはじまります。開始時間前からお声かけしてくださる方もいて、初回の評判が良かったことがうかがえました。受付に来られる方の多くは鍼灸もマッサージも受けたことがない方でした。「治すのではなく、癒す」ことを心に留め、刺激量も普段の半分以下に、そしてなるべくゆっくりと話すことを心がけました。

私が担当した方は比較的健康でしたが、抑うつの方、褥瘡のある方、安静時でも脈拍が130を超える方などさまざまでした。当日参加されていた看護師や医師の資格を持つ先生とも確認しながら、これまで受講してきた研修のおかげで、施術によって支障をきたしそうな方にはより安全な施術方法を提供する判断ができたと思います。

また、一日の終わりに避難所の看護師へ申し送りをおこなうなど、ここが医療連携の現場であり、私たちは医療従事者として活動をしていることを実感しました。

今回、被災地支援に鍼灸マッサージが十分に役に立っていることをあらためて感じました。私は避難者の施術を担当しましたが、石川県の先生方は、県庁で自衛隊や医師、消防士など救命や復旧に継続して尽力されている支援者側の支援もおこなっています。私たち鍼灸マッサージ師は人の手の温もりとともに、多くの方に元気や生きる力を与えることのできる幸せな技術を持っていると強く感じました。また、被災地支援に行つたことで、私自身が「仕えること」「誰かのお役に立つこと」という仕事の意味を考えさせられました。

施術を受けてくださった方から、「気持ちいいねえ。マッサージなんて生まれて初めて受けたもん、嬉しいねえ。こんなに気持ちいいんだね。生きてよかった。ここ来て今まで一番いい思いした。ありがたねえ。遠くから来てくれて。冥土の土産が

用語解説

DSAM (ディーサム)

日本鍼灸師会と全日本鍼灸マッサージ師会とが合同で立ち上げた「災害支援鍼灸マッサージ師合同委員会」の略称。災害時に支援ができる鍼灸師・マッサージ師の養成と、発災時に行政や関係医療団体等に対する業界の窓口となることを目的としている。

JLCDAM (ジェイエルシーダム)

日本災害鍼灸マッサージ連絡協議会の略称。平時の災害対策や支援活動のスキルについての協議や連携のほか、災害時の鍼灸やマッサージによる被災者支援活動をおこなう団体・個人・企業の情報共有や相互支援等をおこなっている。

DMAT (ディーマット)

災害派遣医療チームの略称。「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、医師、看護師、業務調整員で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームで構成される。

JIMTEF (ジムテフ)

国際医療技術財団の略称。医療技術領域における国際協力や災害医療人材育成の円滑な遂行を目的に、日本を代表する21の医療関連職種団体の代表者が一堂に会したJIMTEF 医療関連職種団体協議会を結成し活動している。

東鍼会災害鍼灸委員会よりお知らせ

令和6年能登半島地震に関する鍼灸マッサージボランティア募集についてお知らせします。

被災地は復興の途上にあり、多くの支援が必要になります。会報編集時点では募集は継続しておこなわれておりますが、今後は活動場所や活動時間含めて流動的な対応が予想されます。

災害鍼灸ボランティアをご検討の方は、DSAM Facebook または JLCDAM ホームページから詳細をご確認ください。

DSAM Facebook

JLCDAM ホームページ



動がはじまり、七尾市・志賀町とも調整中です。災害鍼灸ボランティアとして活動をお考えの方は、10ページのQRコードより詳細をご確認ください。

(災害鍼灸委員会 君島三佐子)



できたよ。ありがとうね」と、とてもうれしいお言葉をいただきました。この言葉をいただけただけでも、私は被災地支援に行っていたかと思っております。

現地ではまだまだ支援が必要な状況が続いています。支援を続けるためには多くのマンパワーが必要です。少しでも会員の皆さまに「自分にもできるかも」と思っていただけなら幸いです。

(新卒会員 黒澤範子)